

## 単元名 「交通事故などによる傷害の防止」 <保健分野>

第2学年 傷害の防止

### ◆本実践の概要

前時について、1人1台端末のアンケート機能の集計結果を活用して、振り返りを行い、学んだことを頭の中で再構成し直す。そして、発問と絡めながら本時の目標(学習の目指す地点)を共有する。また、発生要因の各事例を見ながら、Jamboard を利用することで、自己の意見をグループの仲間と共有し、カテゴリーにまとめる協働学習から自らの考えを広げる個別学習へつなげる。最後に1人1台端末を利用し、振り返りのアンケートと小テストの結果を『見える化』することで、本時の学習がより強化できる学習の展開の工夫を行った。

### 1 単元の目標

- (1) 交通事故や自然災害などによる傷害の発生要因、交通事故などによる傷害の防止、自然災害による傷害の防止、応急手当の意義と実際について、理解することができるようにするとともに、応急手当の技能を身に付けることができるようにする。
- (2) 傷害の防止に関わる事象や情報から課題を発見し、自他の危険の予測を基に、危険を回避したり、傷害の悪化を防止したりする方法を考え、適切な方法を選択し、それらを伝え合うことができるようにする。
- (3) 傷害の防止について、自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとすることができるようにする。

### 2 単元の評価規準


知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①交通事故や自然災害などによる傷害は、人的要因、環境要因及びそれらの相互の関わりによって発生することについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ②交通事故などによる傷害を防止するためには、人的要因や環境要因に関わる危険を予測し、それぞれの要因に対して適切な対策を行うことが必要であり、人的要因に対しては、安全に行動すること、環境要因に対しては、交通環境などの整備、改善をすることがあることや、交通事故を防止するためには、自転車や自動車の特性を知り、交通法規を守り、周囲の状況に応じ、安全に行動することが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	①傷害の防止について、それらに関わる事柄や情報などを整理したり、個人生活と関連付けたりして、自他の課題を発見している。 ②傷害の防止について、自他の危険の予測や回避の方法とそれを選択した理由などを、他者と話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて伝え合っている。 ③交通事故、自然災害などによる傷害の防止について、習得した知識を自他の生活に適用したり、傷害の状態に合わせて悪化を防止する方法を見いだしたりして、傷害を引き起こす様々な危険を予測し、回避する方法を選択している。	①傷害の防止について、課題の解決に向けての学習に自主的に取り組もうとしている。

### 3 単元について

ペア学習の話し合い活動の場面では、Google の Jamboard を活用する。Jamboard を活用することで、自分の考えや意見を全体に共有することが可能となるため、誰でも話し合いに参加しやすい環境を整えることができるだけでなく、支援を必要とする生徒も、共に協力しながら学び合うことができるのではないかと考える。また、映像資料を活用しながら、自動車のドライバー目線で死角や内輪差を体感することで、学習して得た知識を実生活に関連付けやすくする。こういった過程のもと、ICTを活用しながら話し合い活動を行うことで、課題に対して論理的に思考し、自分の考えをまとめる力を身に付けさせていきたい。

4 本時の学習

段階	学習内容・活動	学習形態	教師の指導・支援 (◆評価規準と方法)
導入	<p>1 あいさつ</p> <p style="text-align: center;"><b>前時の振り返り</b></p> <p>2 前時の振り返り(Form) ①10~14歳の事故死 ②傷害の要因2つ → 回答結果をグラフで提示</p> <p>3 中学生の交通事故の現状と原因について考える。 ・13~15歳(中学生)の交通事故状況のグラフを見て 「自転車乗用中」の事故が多いことを理解する。</p> <p style="text-align: center;"><b>目標の共有</b></p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">交通事故の現状と原因を理解し、それぞれの発生要因についてみんなで考えよう。</p>	<p>全体</p> <p>全体</p>	<p>○傷害の発生要因(人的要因・環境要因)について、前時の学習内容を確認する。</p> <p>○7~12歳の例を提示することで、その要因に気付かせる。</p> 
展開	<p>4 車両の特性(自転車・自動車)について考える。</p> <p>1) 交通事故の発生要因について、自転車事故の事例をもとに考える。 ①Chromebookを机の上に用意し、「Classroom → R4_2年_体育」にある「事例1」のファイルを開く。 ②みんなで「事例1」の「発生要因」を考える。 ③「発生要因」を分類する(人的/環境/その他) (人的:黄色/環境:緑色/その他:桃色) ④桃色=「車両要因」であることを理解させる。 (自転車の車両の特性、車両の欠陥・整備不良など)</p> <p style="text-align: center;"><b>課題解決へ向けた協働学習</b></p> <p>2) 「車両要因」(自転車)について整理する。 ・その他に分類された要因は車両要因であることを知り、自転車の車両要因について知識を深める。</p> <p>3) 交通事故の発生要因について、自動車事故の事例をもとに考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>事例1</b> なやまは、遅かったのか</p> <p>夜9:45頃、中学生Aさんは、塾を終えて自転車で帰宅しようとしていました。Aさんは10時からドラマを見るために、普段は通らない公園の中を近道し、急いでいました。電灯の少ない薄暗い道でしたが、Aさんの自転車のライトは故障していたため照度が低く、暗闇の中を走っていました。すると、T字路にさしかかったところで、犬の散歩をしていた老人が突然横道から出てきました。とっさにブレーキをかけたAさんが、スピードを出していたため、急停止することができずに衝突してしまいました。</p> </div> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">担当者が考えたオリジナルの事例を使って</p> <p>①「Classroom → R4_2年_体育」にある「事例2」のファイルを全員が開く。 ② 2~3人でグループを組んで、担当する番号の書かれた番号札を配布する。</p>	<p>全体</p> <p>グループ</p> <p>全体</p>	<p>○教師側が指名しながら「発生要因」を事例の文章から抜き出していく。</p> <p>○教師は「Jamboard」を開き、画面をモニターに映して生徒と共有しながら「発生要因」を書き出していく。</p>  <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">協働で課題に取り組む場面</p> <p>○分類をする際は挙手制とし、生徒の意見をもとに教師が色付けをしていく。</p> <p>○その他に分類されているものには「車両」が関わっていることに気付かせる。(発問)</p> <p>○自転車の車両の特性として、停止距離、バランスを崩しやすいことを明確に伝える。</p> <p>○車両の特性以外にも、車両の欠陥や整備不良なども含まれることを確認する。</p>  <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">個別に課題に取り組む場面</p>

<p>③各ペア右側の人たちは「Classroom → R4_2年_体育」にある「Jamboard」を起動する。</p> <p>④「Jamboard」担当の人は、配られた番号札のページを開く。</p> <p>⑤「事例1」と同じ順序で作業を開始する。 → 今回は「車両要因」について先に考える。</p> <p>⑥いくつか抜粋したグループのシートをもとに答え合わせをする。</p>		<p>○作業の流れをモニターに映し出すことで、生徒が視覚的に確認できるようにしておく。</p> <p>○机間巡視をしながら、支援が必要な生徒を中心に声かけや働きかけをしていく。</p> <p>○5分経過したところで、教員側で編集権限を変更する。(編集者を教員のみにする。)</p>
<p>◆&lt;知識・技能-①&gt; 交通事故や自然災害などによる傷害は、人的要因、環境要因及びそれらの相互の関わりによって発生することについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 <b>【観察】</b></p>		
<p>○本実践で見られた自ら学びを調整しようとする姿 ・各事例における発生要因について、仲間と考えたり、まとめたり、共有したりしようとする姿</p>		
<p>4)「車両要因」(自動車)について整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・その他に分類された要因は車両要因であることを知り、自動車の車両要因について知識を深める。</li> <li>・自動車の車両の特性について、動画を用いて理解を深める。</li> </ul>	<p>全体</p>	<p>○自動車の車両の特性として、「死角・内輪差・停止」があることを明確に伝える。</p> <p>○自転車同様、車両の特性以外に車両の欠陥や整備不良も含まれることを確認する。</p> <p>○学習した車両要因を中心にポイントで説明を加える。</p>
	<p>疑似体験できるよう工夫した教材</p>	
<p><b>本時の振り返り</b></p> <p>5 振り返り(Form)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の振り返りアンケート、小テスト</li> <li>→ 全員が回答終了後、結果をグラフでモニターに映し出して全体で振り返りする。</li> </ul>	<p>個人 ↓ 全体</p>	<p>○感想ではなく、本時で学習した内容をもとに記述するよう助言する。</p> <p>○個人→全体の振り返りの中で、グラフをもとに本時の目標が達成できているかどうかを全体で共有する。</p>
<p>◆&lt;思考・判断・表現-②&gt; 傷害の防止について、自他の危険の予測や回避の方法とそれを選択した理由などを、他者と話し合ったりノートなどに記述したりしている。 <b>【Form】</b></p>		
<p>6 次回の授業について(学習内容の確認)</p> <p>7 あいさつ</p>	<p>全体</p>	

まとめ

## 5 今回活用した ICT について

### ① Google Jamboard について

Google Jamboard (以下、Jamboard) は、共同作業に適した「デジタルホワイトボード」として、授業におけるグループでの意見交換や、手書きでの表現などができるツールである。また、その操作の容易さから小学校低学年の授業でも広く使用されている。

これまでは、ブレインストーミングなどで得た情報を付箋に記入し、同じ系統の付箋をグループ化し、系統ごとに分類されたデータを整理する手法である KJ 法で学習を進めてきた。今回の授業では、この Jamboard を使用することで、KJ 法と同様な学習方法をより効果的・効率的に進めるためのツールとして活用した。



### ② Google Form について

Google Form (以下、Form) は、アンケートや投票など、Web 上でよく利用されるフォームのさまざまな用途に対応可能なツールである。特にアンケート機能が充実しており、回答形式が豊富に用意されているため、答えやすい回答形式を選択すれば、回答の手間を極力削減し、回答率を向上させることができる。また、スプレッドシートなどの Google が提供している他サービスとも連携でき、フォームから送信されたデータの保存やアンケートの自動集計などを瞬時に行うことができる。今回の授業では、「振り返り」の場面において、学習ノートやプリントではなく Form を活用し、短時間で効率よく振り返りを行うことをねらいとした。また、生徒の回答内容を自動集計してスプレッドシートにまとめることで、生徒の理解度や達成度をフィードバックすることができるため、生徒の学習改善につながるためだけでなく、指導者の指導改善につながるツールとして活用した。



## 6 実践を振り返って

本単元では、ICTを活用しながら効率的に学習を進めていくことや生徒同士の協働学習を通して、主体的・対話的で深い学びを実現させることを念頭に授業構成を行った。

自転車・自動車それぞれの場面における事故の発生要因について考える学習では、教師が車両要因を絡めながら身近な事例をあげ、生徒主導の協働学習へと発展させていった。教師主導の一斉学習から生徒主導の協働学習という段階を踏むことで、より深い学びとなり、努力を要する生徒への支援や配慮にもつながると考えた。協働学習の際に Jamboard を活用したことで、自分の考えや意見を効率的に全体に共有することが可能となった。

また、映像資料を活用し、自動車のドライバー目線で死角や内輪差を体感することで、学習して得た知識を実生活へと関連付けることができていた。そのような過程のもと、ICTを活用しながら協働学習を進めていくことで、課題に対して論理的に思考し、自分の考えをまとめる力を身に付けさせていくことにもつながると感じた。

一方で、本時の学習で最も強調したい「車両要因」について考えさせる場面では、身に付けさせたい知識や議論させたい内容をさらに明確にする必要があると感じた。また、Form を活用して振り返りを行った場面では、生徒の回答内容を即時にデータ化することが可能なため、授業の最後の場面で集計結果を全体で共有することで、次時の目標設定が容易になるという気付きもあった。